

2022年4月29日

バイデン大統領が推進する「アメリカの新しい戦争」

和田春樹

ジョー・バイデン

1942年生 ペンシルヴェニア シラキューズ大学卒

1973年 上院議員

2001年上院外交委員長

2009-2017 副大統領 2014年マイダン革命前後に深く関与

2019年 大統領選出馬、トランプ陣営、ウクライナ・スキャンダルを攻撃

2020年11月 トランプに勝ち、米大統領に当選

バイデン大統領の最初の一年

2021年1月 ブリンケン国務長官任命 (1962年生 前大統領選挙外交顧問、上院外交委員会事務局長2002-2008、国務次官2014- 祖父ウクライナ系ユダヤ人)

同年同月 オースチン国防長官任命 (1953年生 イラク戦司令官2010-11、参謀次長、中央軍司令官2013-16、レイテオン社 (パトリオット・ミサイル製造) 重役2016-17)

2021年3月25日 最初の記者会見「これは21世紀における民主主義国家と専制国家の有用性をめぐる闘いだ。」「対決は望まないが、非常に厳しい競争になるだろう」

同年4月29日 最初の議会演説 トランプ派の議会乱入、制服警官による黒人ジョージ・フロイド氏の白屋路上殺害など国内危機について語り、「習近平やその他の autocrats は民主主義は21世紀には autocracies と競争できない、コンセンサスをうるのに時間がかかるからだと考えている。」「われわれの民主主義はわれわれを引き裂いている嘘、怒り、ヘイト、そして恐怖を克服できるだろうか。」「アメリカの相手

たち adversaries——the autocrats of the world はわれわれにはできないと賭けている。」

同年5月3日 ヴィクトリア・ヌーランド 国務次官就任（前国務次官補（ヨーロッパ・ユーラシア担当）2013-17。ウクライナ系ユダヤ人が祖父。夫ロバート・ケイガン ネオコン国際問題専門家。夫の兄弟の妻キムバリーが戦争研究所所長）

同年6月5日 WP に寄稿「民主主義国を再結集させる」

同年6月11-13日 G7 サミット、中国に台湾問題の平和的解決を求める

同年6月16日 米ソ首脳会談

同年7月 米軍アフガニスタンから撤兵

同年8月31日 撤兵について記者会見 中国とロシアによる挑戦について語り、「米国がアフガニスタンにもう10年はまりこむことほど彼らにのぞましいことはない」。

同年9月15日 AUKUS 成立(米英豪の軍事同盟)

同年9月24日 ワシントンでQuad（米英日印）会議開催、毎年開催決定

同年10月ウクライナ国境のロシア軍が10万人規模に増強

バイデン大統領の第二年

2022年1月19日 記者会見『彼らがウクライナに侵略すれば、ロシアにとってさらなる大災害となるだろう。われわれの同盟国とパートナーはロシアとロシア経済に厳しいコストと重大な損害を課すだろう』

同年2月15日 プーチン=ショルツ会談

同年同日 演説「侵攻の可能性はまだ十分にある」、NATO 不拡大不同意を表明

同年2月20日 マクロン、米露首脳会談開催で合意したと発表、米も発表、軍事侵攻なければおこなう。24日外相会談で調整と発表。

同年2月21日 プーチン、ドネツク、ルガンスクに軍派遣を指示。両人民共和国独立承認の大統領命令

同年2月22日 バイデン演説「侵攻のはじまり」、金融制裁発動

同年2月24日 ロシア、ウクライナ侵攻「軍の特殊作戦を開始する」

同年2月23日夜 バイデン「この攻撃がもたらす死と破壊の責任はロシアのみが負う。米国と同盟国は団結して、断乎とした方法で対応する。」

バイデン「プーチン大統領は侵略者だ。彼はその報いをうけることになる。」
NATO 態勢強化のため独に7000人増派決定

この間制裁の拡大、武器供与の拡大すすむ

同年2月28日、ゴメリで停戦協議はじまる

同年3月2日国連総会でロシア非難決議141対5対35

同年3月3日ベラルーシで停戦協議第2回

同年3月7日停戦協議第3回始まる

同年3月11日 バイデン〈吾々はウクライナでロシアと戦争しない〉

同年3月14日 停戦協議第4回

バイデンのワルシャワ演説のあと

同年3月27日 バイデン、ワルシャワ演説 民主主義は勝利する、「われわれはこの戦いに比較的長い期間（for the long haul）コミットしなければならない」

「こんにちのキエフ、メリトポリ、ハルキーフの闘いは長い闘争の最新の戦闘なのだ。」56年のハンガリー、56年と81年のポーランド、68年のチェコ、89年のベルリンの壁の崩壊、人民は勝った。「しかし、民主主義のための戦闘はおわることにはならなかった。冷戦の終了では終わらなかった、最近30年、専制勢力は全地球的に復活した。…今日ロシアは民主主義を絞め殺し、他の地でも、その母国だけでなくそうしようと企てた。・・・プーチンはあつかましくもウクライナを「非ナチ化」しようとしていると言っている。」「犯罪者はNATOの拡大をロシアを不安定化することを狙った帝國的計画だと描き出そうとしている。」「帝国の再建をねらう独裁者は人民の自由への愛を決して消し去ることはできない。・・・ウクライナはロシ

アの勝利の獲物にはならない。自由な国民は希望のない、暗黒の世界に生きることを拒否する。…神のご加護により、この男は権力にとどまることはない。」

ロシアに対する「アメリカの新しい戦争」（プーチンを倒せ、アメリカ兵は参戦しないが、武器は最大限供与、ウクライナ人の戦闘、自らは制裁による経済戦、米官民機関による情報宣伝戦）の宣言である。

同年3月29日 イスタンブールで停戦協議、ウクライナ中立化の条件として自国の安全の保障のための枠組みを提案。クリミアの地位については15年間の交渉、ドンバス東部については大統領会談で解決など（ウクライナ停戦への希望）

同年4月2日 ロシア軍キエフ方面から撤退、ウクライナ、同地域を奪還と発表

同年4月3日 ブチャで市民410人の遺体発見とウクライナ検事総長発表、欧米諸国、戦争犯罪と一斉非難、対露新制裁の方針発表

同年4月4日 バイデン、プーチンは「戦争犯罪人」だと語り、国際法廷を用意をよびかける。ウクライナ国防省、ロシア軍兵士2000人の名簿を発表、民間人殺害関与と告発。

同年4月5日 下院軍事委員会公聴会でミリー統合参謀本部議長証言「長引く紛争だ」、「数十年でなくとも、少なくとも数年間になるだろう」（戦争の長期化）

同年4月6日 米、対露新規投資を禁止、最大手銀行の資産凍結

同日、ウクライナ、停戦条件修正か（?）

同年4月7日 国連総会、ロシアの人権委員会理事国資格を停止

同年4月24日 ブリンケン、オースチン両長官、キーエフ訪問

同年4月25日 オースチン長官発言「ロシアがウクライナ侵攻のようなことをできない程度に弱体化することを望む」（米国の戦争目的の再定義）